



# 令和8年度千鳥福祉社会事業計画書 目次

項目	ページ
<b>I. 法人本部事業計画</b>	
<input type="checkbox"/> 1. 法人本部事業計画	1～2
<input type="checkbox"/> 2. 中長期目標	3～4
<input type="checkbox"/> 3. 短・中期プロジェクト	5～6
<b>II. 総務計画</b>	
<input type="checkbox"/> 1. 財務管理委員会計画	7
<input type="checkbox"/> 2. 人材育成計画	8
<input type="checkbox"/> 3. 衛生委員会計画	9
<input type="checkbox"/> 4. 情報発信委員会計画	10
<input type="checkbox"/> 5. 安全管理委員会計画	11
<b>III. 事業部計画</b>	
<input type="checkbox"/> 1. 医務計画	12
<input type="checkbox"/> 2. 栄養管理委員会計画	13
<input type="checkbox"/> 3. リスクマネジメント委員会	14
<input type="checkbox"/> 4. 虐待防止・身体拘束適正化委員会計画	15
<input type="checkbox"/> 5. 防災委員会計画	16
<input type="checkbox"/> 6. 感染症対策委員会計画	17
<input type="checkbox"/> 7. 安全運転管理委員会計画	18
<b>IV. 各事業所事業計画</b>	
<input type="checkbox"/> 1. ひまわり事業計画	19
<input type="checkbox"/> 2. 持田寮事業計画	20～21
<input type="checkbox"/> 3. 千鳥福祉会 つばきの里事業計画	22～23
<input type="checkbox"/> 4. L.C.C.ういんぐ事業計画	23～24
<input type="checkbox"/> 5. ワークセンターフレンド事業計画	25
<input type="checkbox"/> 6. ぱすてる・ぱすてるぴいず事業計画	26～27
<input type="checkbox"/> 7. 千鳥福祉会 ケアセンター大空事業計画	28～29

# |-1. 令和8年度 法人本部事業計画

## (1) 目的・活動方針

理念更新を機に、法人の事業の意味、職員一人ひとりの仕事の意味を見つめ直し、互いに支え合い、多くの人の幸せに寄与できる活動をして行く。

## (2) 経営課題（重要成功要因）

- ①法人開設から35年。時代の変化を受け、今とこれからの時代のために理念の深化、更新を行い、法人の存在意義を再確認する。その上でより多くの人に価値提供できる事業を全職員で共創する。
- ②関係の質を高めることから始め、成功循環を回し、より良い支援、価値提供をして行く。
- ③法人内情報を職員間で共有し、福祉職員として自律性を高め、目標と成果に向かうプロセスの仕組化を進める。合わせて、生成AIを活用した知識共有、業務支援、協働環境を整え、質の高い実践を行える体制づくりを進める。
- ④利用者本位・独自能力・職員重視・社会の承認の好循環を一層推進する。
- ⑤時代の流れを見通し、法人、事業所課題を整理し、タイムリーに経営、事業改善を図る。  
新規：短中期プロジェクト ひとプロジェクト、地域共生（地域交流促進・共生社会推進）プロジェクト、グループホーム事業再編プロジェクト、食プロジェクト
- ⑥継続して地域交流、共生社会推進の活動を進める。その上で、制度の隙間を埋め、地域のつながりを再生し、社会福祉事業の基盤を強化する事を目的に、公益事業の公式事業化について検討する。

### ●重点実施計画 ※別紙、中長期計画を参照

## (3) 年間行事等計画

- クリーン松江参加(6月・10月)○事業所説明会(6月28日)○家族会合同奉仕作業(11月29日)
- ヒルクライム松江北山(5月31日)・もちだ夜市(7月25日)松江北山登山駅伝(10月11日)
- 持田地区ふるさと祭り(10月25日)

## (4) 会議等開催計画

### ○評議員・理事・監事等構成及び任期

役職名	人数	任期	役員選考権限	選任会議開催時期
評議員	8名	4年(2025.6月～2029.6月)	評議員選任解任委員会	2027年（R9.6開催） ○理事・監事選任
理事	7名	2年(2025.6月～2027.6月)	社会福祉法	
監事	2名			
評議員選任解任委員会	3名	(2024.6月～2028.6月) 定時評議員会時	理事会	

### ○定時理事会、監事監査会、評議員会等開催計画

2026年5月28日(木)	監事会【2025年度事業実施状況及び決算状況監査】
2026年6月3日(水)	役員会【2025年度事業報告、決算報告及び社会福祉充実残高等審議、他報告事項確認】
2026年6月18日(木)	定時評議員会【2025年度事業決算・社会福祉充実計画の審議等の審議・承認。情報共有他】役員会
2026年11月26日(水)	役員会【2026年度上半期事業・収支状況確認及び1次補正予算・常務理事業務報告】

2027年3月25日(木)

役員会【最終補正予算案、2026年度事業計画及び予算案、常務理事  
業務報告他報告事項】

- 常務理事会～月次2回開催（第2・4月曜日）。利用者、職員に価値提供のできる組織経営をして行く。  
議案の速やかな決定・進展を図る。経営品質会議(管理者層)へ議題提案・審議を行う。  
原則として福祉・労基等の法制度を押さえた事業運営を行う。例規集の更新・周知・運用のサイクルを回す。
- 経営品質会議～月次2回開催。管理者と価値・情報・運営状況・課題・戦略の共有により、法人運営力・経営力の向上を図る。時代の流れや福祉情勢、法人状況を読み取り、必要な手立てを検討し行動力ある組織となる。
- 全体フォーラム～年3回 7月10日：2025年度事業決算報告、事業報告情報共有  
11月13日：前期取り組み状況報告、法人研修  
3月26日：次年度事業計画周知

#### ○委員会～各委員会事業計画別途添付

##### (5) 実施事業

- 『持田寮』：施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援
- 『L.C.C.ういんぐ』：障がい：就労継続B型、生活介護、地域活動支援センターII型  
介護保険：共生型地域密着型通所介護  
認定生活困窮者就労支援、指定福祉避難所として公示・運用
- 『ワークセンターフレンド』：就労継続B型、認定生活困窮者就労支援
- 『千鳥福祉会 つばきの里』：7ホーム運営
- 『千鳥福祉会 ケアセンター大空』障がい：居宅介護、行動援護、同行援護、重度訪問介護  
移動支援(市町村事業)  
介護保険：訪問介護、総合事業
- 『ばすてる』：放課後等デイサービス事業
- 『ばすてるぴいす』：放課後等デイサービス事業
- 『ひまわり』：計画相談支援、障害児相談支援、地域相談支援(地域定着・地域移行)  
松江市障がい者相談支援事業委託業務

##### (6) 借入金の償還及び借入残高

- 共同生活会計 当年度返済金額(元金1,992,000円 利息120,000円) 残り返済期間3年
- ういんぐ会計 借入金12,000万円 当年度返済金額(元金4,272,000円 利息615,000円)
- ばすてるぴいす会計 借入金3,000万円 当年度返済金額(元金1,992,000円 利息450,000円)

##### (7) 設備等整備計画

###### 経年劣化及び法改正対応に伴う設備更新等

- 大規模修繕工事に向けての調査(体育館・リハビリ棟屋根塗装・持田寮防水シート貼替・壁クラック等修繕、ボイラ設備・配管修繕、南棟浴室改修等)

##### (8) 法人企画研修計画等

～人材育成事業計画別途添付

##### (9) 経営収支目標(数値)と具体的戦略

- 各事業所事業活動収支の赤字脱却 法人全体積立金500万円増
- 各事業所の適正な収支状況の把握、利用率アップ、人件費管理、経費削減への取り組み実践

## 1-2. 中長期目標(R6年度～R8年度)R8年度

単年度法人中長期目標キーワード:

『関係の質を高める(共感デザイン)』『理念の共有(価値デザイン)』『結果・成果を追求する』

\* 今回の改定より福祉制度の改定サイクルも踏まえ3か年計画として設定、立案。

要素	ビジョン 中長期	中長期 目標	具体的計画内容	単年度強化実施事項	達成目標・指標	担当部門
利用者本位	地に足を付けた基幹事業を築くと共に、働く者の充実感や達成感を実現します。	①ご本人の意思に基づく個別性を重視した支援を追求します	○合理的配慮に基づく意思決定支援の浸透 ○「こらたい」が言える意思形成、意思決定支援をしていく	○意思確認マニュアルの策定(全事業所対応) ○意思決定を反映した支援計画書作成とそれに基づく支援の実施(全事業所対応)	・意思決定支援マニュアル策定 ・意思決定支援会議の通常開催と意思決定支援計画の作成	虐待防止委員会 全事業所
			○ワークもライフもどっちも楽しめる支援の創出	○ご本人が望む生活へのサポート ○ご本人の意向に沿った暮らしの場、働く場を叶え、安心して地域生活を継続できる支援体制の構築(R8年義務化) ・入所:地域生活移行に向けた意向確認 ・地域移行等意向確認担当者選任(持田寮) ・グループホーム見学、体験の推進(GH)	R8年度運用開始 ○地域移行に伴う意向確認指針運用 ○ご本人の意向確認シート活用 ○地域移行意向確認担当者選任	持田寮 グループホーム
			○アセスメントを重視し、その人らしい過ごし方の支援を行う。	○その人らしさの見える化と具体的な行動が見える支援計画立案継続。 ①アセスメント(サポートブック)の更新、積み上げをし、その人らしさを職員間で共有をする。 ②支援計画・支援方法とのリンクを確認する。 【その人らしさに見える化するための着眼点】 ○その人の歴史:生活環境、家族、経験・体験 ○「好きなこと」「得意なこと(ストレングス)」「大事なこと」	サポートブック更新(1回/3年) その人らしさを支える支援計画立案	各事業所サビ管・サビ提・児発管
独自能力	地に足を付けた基幹事業を築くと共に、働く者の充実感や達成感を実現します。	②根拠に基づく質の高い支援をします	○発達障害や精神障害支援に関する知識を深め、利用者の困り感を緩和、解決する支援をする	○応用行動分析やその他の支援技法を学び、各事業所での支援向上策として試行、実践する。 ○事業所課題や事業所推進内容にあった内容の研修企画の実施	各事業所重点取り組み課題を設定し実施 支援技法内部研修実施回数 or 実践ケース数	事業所管理者 担当者
			○働く職員の質と意識の向上を図る	○組織と個人が成長し続けるために、階層ごとに必要な能力や役割を果たせるようにする為の階層別研修の企画、実施	階層別研修の企画・実施	研修委員会 担当者
			○生成AIの活用:ツールの導入から始め、支援の質の向上、価値創出のためのパートナーへ育てる。	○各事業所での実験的な活用の実施 まずは各自の仕事で活用を試してみる。	○社内報で各事業所、個人の活用事例を共有:各事業所1回	経営層管理者 各事業所
			○目標工賃を確実にクリアする	○目標工賃設定に向けての戦略と達成する為の管理 ○年間の平均工賃実績額UP(フレンド報酬基準1ランクUP)	○年間目標管理シート作成。都度行動計画修正 ○平均工賃額 ういんぐ12,000円以上 フレンド29,000円以上	ういんぐ フレンド
職員重視	成長をお互いを認め合い、共に	③	○私たちにとっての仕事の目的・意味を再確認し、共有、浸透していく。	○新理念(ミッション、ビジョン、バリュー)の継続周知、全職員で共有していく。 ○新理念に基づいて各事業所の目的、目指したい姿を設定して取り組み実施。並行して各職員が理念の下で取り組んで行きたい活動を設定し、理念と各自の取り組みのつながりがつかめるようにしていく。	○フォーラム時に理念周知研修実施 ○サービス評価各事業所評定目標3.0以上	理事長 経営層 管理者
			○心理的安全性の高い場をつくる(失敗から学ぶやさしいチーム)	○成功循環モデルを回していくを指し、メンバーの関係性を高める(共感デザイン)取り組みをしていく。 ○社内報を活用し職員相互理解の促進 ○グッジョブ制度やサンクスカード等、感謝と気づきを伝える取り組みをする。	○各事業所での取り組み設定、4半期ごとの実施状況確認 ○『心理的安全性7つの質問』サーベイ各事業所評定目標3.8以上	経営層 管理者 各事業所

職員重視	地に足を付けた基幹事業を築くと共に、働く者の充実感や達成感を実現します。	③ お互いを認め合い、共に成長する組織になります	○規律や規範の再構築と浸透を図る(例規集、マニュアル、職員行動規範)	○事業運営規程や職員行動規範等の浸透を継続とする。 ○例規集・マニュアル・行動指針研修の実施	○規程の浸透に向け周知強化(規程研修実施年3回) ○研修計画	経営層 事業所
			○職務の役割や責任、成果の見える化を図る(職務の見える化)	○仕事人としての成長と成果が実感でき、納得感のある新たな人事考課制度・キャリアパス制度となるよう更新を続ける。 ○事業決算報告及び事業報告を全職員向け情報として周知する。	○人事考課にて目標管理 1on1ミーティング定期実施 ○計画的研修受講 ○全体フォーラムで周知	経営層 管理者
			○安心出来る人生設計の実現	○子育て世代の支援推進(勤務調整・育休申請、時短勤務) ○介護休暇制度の支援推進(制度理解)	○産休・育休・時短取得者数 ○介護休暇周知(対象職員)	経営層 管理者
透明性の確保	健全な運営基盤を創ります。	④ 地域の社会実現の一員として共生社会	○地域の「住みよいまちづくり」への参画と共生社会の推進	○地域への積極的・物的協力(法人) ○「地域にあったいいな」「地域住民の為に」の取り組みを利用者支援活動から小さく始める(地域福祉課題の推進への協力) ○地域生活支援拠点事業(ひまわり登録申請) ○事業所企画の地域交流活動の積極的実施 ○大規模災害に備えた地域の方の避難受入れ時計画を作成	○プロジェクト、各事業所事業計画にて行動計画の策定 ○地域関係会議で企画推進(地域連携推進会議、運営推進会議、持田地区地域福祉活動計画推進委員会)	経営層 管理者
			○SDGsの取り組み	○千鳥福祉会SDGs宣言の制定と実践 ※業務遂行の観点からR8年度事業からは外し、凍結とする。法人及び各事業所でSDGsの要素を含んだ取り組みは継続して行く。	※事業凍結	
透明性の確保	健全な運営基盤を創ります。	⑤ 健全な運営基盤を創ります。	○無駄を徹底的に削減する	経費削減に向けた取り組み継続。 コピー用紙・プリンター数の削減を進めペーパーレス化を促進する。	○稟議書ペーパーレス化 ○会議関連・給与関連・経理関連書類のペーパーレス化	○総務部・経営層 ○全事業所
			○中長期における事業計画・資金計画を軸に、運営資金目標を定め事業運営の改善を図る	○各事業所、法人の中長期計画・資金計画作成 ○根拠に基づく目標設定と達成に向けた取り組みと管理 ○経営課題から見る事業の縮小・拡大等の検討	○法人・事業所の資金計画作成(中短期) ○プロジェクトの始動・推進	○経営層 ○管理者
			○人件費管理・資金計画を作成する。 ○運営資金目標を中・短期で定め、法人の資金収支計画を立てる(各事業所事業活動収支の赤字脱却)	○各事業所、収入の確保について課題を分析し、改善へつなげる。 ○キャリアパスを含む人件費マネジメントを行う。 ○事業決算報告を全職員向け情報として周知する。	○法人全体積立金 500万円増(年度毎)	○管理者 ○常務理事 ○財務管理委員会

### 1-3. 令和8年度短・中期プロジェクト(重点実施項目)

	目的	実施内容	期間・スケジュール	指標と達成目標
ひとプロジェクト	人材確保・育成・定着を強化し、法人全体のサービス品質を向上させる	<b>【採用力強化】</b> <b>●積極的なブランディング</b> ・理念と事業をつなぎ、求心力と一貫性をつくる <b>機関紙、HPリニューアル</b> 、SNS等を活用した一貫性のあるメッセージ発信、 <b>ロゴ作成</b>	・ロゴ作成:5月 ・機関紙リニューアル:6月 ・HPリニューアル:10月	各媒体の作成、更新、運用開始
		<b>●人財確保への対応</b> (外からの求人確保の為に) ・新卒採用活動スケジュールの起点的早期化 ・有料求人媒体も活用した積極的な求人活動 ・SNS(Instagram・Facebook)、HP公式アカウントの運用強化 ・Googleビジネスプロフィール登録(口コミ募集)	R8.9年度学卒者への求人活動開始	求人票掲載(R8.3月) 選考開始(R8.6月)
		・ <b>法人事業説明会の実施(対面・オンライン)</b> ・ <b>ういんぐでのインターンシップ・職場体験の受け入れ拡大</b>	・プログラム作成:5月 ・令和8年6月～:インターン受入(月2回)開始	求職セミナー参加・学校訪問
		<b>【職員育成・成長支援強化】</b> <b>●研修委員会による育成</b> ・階層別研修の企画、運営、年間計画の作成	・年間計画の作成:4月	計画の确实実施
		<b>●各事業所内における研修企画実施</b>	・年間計画に基づいた実施	計画の确实実施
		<b>【組織文化の醸成】</b> <b>●理念の浸透</b> ・ <b>理念(MVV)カードの作成、配布</b> ・バリューと自身の行動を結びつける活動をする ・バリューの体現促進のため、評価、面談と紐づける	・理念カードの配布:6月 ・個別目標設定(目標管理シート) ・人事考課シートの改定	バリュー定着スコアの実施 1年目目標:60点
		<b>●心理的安全性の高い職場づくり</b> ・共感デザインと価値デザインのプロセスから心理的安全性を高める	・基本事項の学習 ・各事業所で <b>共感デザインを高める取り組みを設定</b>	効果測定:心理的安全性7つの質問
		<b>●業務適性分担による業務の質の向上・効率化</b> ・L.C.C.ういんぐ:サビ管分離 ・各事業所:業務分担の適正化	・サビ管分離:6月 ・実施計画の作成	業務効率、業務品質、業務負荷の視点で設定
食プロジェクト	食の提供の最適化を図り、コスト削減を明確化する	<b>●現状コスト比較</b> (自前調理 vs 外部委託)	令和8年6月:現状調査	比較調査報告書提出
		<b>●市場調査</b> 委託業者の情報収集(弁当・給食)		調査報告書提出
		<b>●プロポーザル入札開始</b>	令和8年11月:プロポーザル入札開始 令和9年2月:新業者選定	実施要領作成・公告 新業者決定

地域共生（地域交流促進・共生社会推進）プロジェクト	地域に開かれた法人としての存在感向上と地域共生の推進させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域企画の行事、イベントへの協力・参画(継続)</li> <li>①法人全体協力企画 ヒルクライム松江北山、もちだ夜市、北山登山駅伝、グリーン松江</li> <li>②対象事業所協力企画(大空・ういんぐ) 持田地区ふるさとまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒルクライム松江北山…6月</li> <li>・もちだ夜市…7月</li> <li>・北山登山駅伝…10月</li> <li>・グリーン松江…6月、10月</li> <li>・持田地区ふるさとまつり…10月</li> </ul>	各企画に基づき参加
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●法人事業の周知、理解促進</li> <li>・地域の学校関係・地域住民の見学促進</li> <li>・利用児童御家族への理解促進企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嵩の杜学園、持田小学校見学受入:7月</li> <li>・地域民生委員等の見学実施:10月</li> <li>・ういんぐ事業説明会開催:6月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嵩の杜学園、持田小学校見学企画1回</li> <li>・地域民生委員等の見学1回</li> <li>・ういんぐ事業説明会1回</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所発地域交流イベントの開催</li> <li>対象事業所の地域交流企画実施(ういんぐ、ぱすてる・びいす、ホーム、持田寮)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ういんぐ2回</li> <li>・その他事業所(ぱすてる・びいす、ホーム、持田寮)ういんぐ協同参加含め1回</li> </ul>	各事業所計画により詳細管理
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の中での役割創出を進める</li> <li>地域課題、ニーズに基づく協働企画の創出</li> </ul>	持田地区地域福祉活動計画推進委員会…2月	推進委員会にて提案・要望聴取
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●法人・事業所の資源・力を地域資源へ</li> <li>・地域防災協力体制の構築</li> <li>・専門知識・能力の地域への提供、還元</li> <li>・備品・設備・空間の貸し出し(体育館・ういんぐ多目的ホール・資機材等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所緊急受入時の対応作成～6月</li> <li>・地域清掃、北山林道草刈り、やすらぎ喫茶送迎等</li> <li>・要望に応じて積極的貸出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所緊急受入対応マニュアル完成</li> <li>・各事業所計画により実施</li> <li>・貸出時公表</li> </ul>
グループホーム事業再編プロジェクト	しグループ利用者の生活の質を向上させる事業の持続可能な運営体制を構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存GHの稼働率・老朽化・人員配置の分析</li> </ul>	令和8年5月:現状分析	分析シート作成
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●他GH視察・見学</li> </ul>	令和8年6月:視察	視察2件
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●既設ホーム統廃合・新設のシミュレーション(支援費収入・建設工事)</li> </ul>	令和8年7月:再編案作成	令和8年9月:再編計画決定
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●勤務形態・働き方の見直し</li> </ul>	令和8年5月:現状分析	職員配置の適正度
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化(ICT・記録統一・調理業務の外部化検討)</li> </ul>	令和8年5月:現状、課題分析	業務プロセス(記録、諸業務)改善提案

…各事業所計画内容と連動

## II-1. 令和8年度財務管理委員会事業計画

### ●委員会目的

経営状況の推移を把握する中で各事業所の財務状況を管理し、課題分析を行い、常務理事並びに経営品質会議において提言することにより、タイムリーな課題改善につなげる。

### ●経営課題（重要成功要因）

- ① 毎月の収入状況報告及び四半期決算を行う。
- ② 収支状況を把握する中で法人・事業所の課題改善のための提案に繋げる。
- ③ 経費削減への取り組みを継続し状況を周知する。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
経営状況の確認	毎月の収入状況の発信及び四半期決算を行う。 予算進捗会議を開催し、事業所の経営状況確認を行う	事業所毎財務会議開催 (年3回)
経費削減 (ペーパーレス化)	書類のペーパーレス化を目指し、コピー用紙・コピー チャージ料を削減する取り組みをおこなう	プリンター・コピー カウント5%削減

### ●委員会主催研修

- 決算書から事業所の経営分析を行う（7月事業所毎財務会議）

### ●会議開催計画（毎月第2火曜日）

4月	決算進捗確認	10月	前月收入確認（経営品質会議） 事業所毎財務会議（進捗会議）
5月	前月收入確認（経営品質会議） 内部経理監査・監事監査	11月	前月收入確認（経営品質会議） 半期収支確認・報告
6月	前月收入確認（経営品質会議） 決算報告	12月	前月收入確認（経営品質会議） 半期監事監査
7月	前月收入確認（経営品質会議） 事業所毎財務会議（進捗会議）	1月	前月收入確認（経営品質会議） 事業所毎財務会議（進捗会議）
8月	前月收入確認（経営品質会議） 4半期収支確認	2月	前月收入確認（経営品質会議） 4半期収支確認 当初・補正予算作成
9月	前月收入確認（経営品質会議）	3月	前月收入確認（経営品質会議） 予算会議

## II-2. 令和8年度人材育成事業計画

### ●委員会目的

- ・法人理念と職員一人ひとりの「こうなりたい」「こんなことをしたい」を結びつけ、共に成長をして行く。
- ・職員一人ひとりの成長、活躍と良いチーム作りを両輪にし、より良い支援の提供ができるようになる。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ①理念と支援観の共有を図る。(支援の「共通言語」をつくる)
- ②何を言っても大丈夫な場をつくり、関係の質の向上を図る。(心理的安全性の向上の取り組み)
- ③小さく始め、小さな成功体験を積み重ねる。
- ④根拠に基づいた支援や経験をみんなで共有する。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
理念と支援観の共有を図る。(支援の「共通言語」をつくる)	理念の自分事化ワークショップを開催し、対話の中で各自が理念を自身の中に落とし込む。	役職者研修1回
	理念に基づく支援の「共通言語」づくりを進め、行動・判断基準の共有を図る	取りまとめ集(第1集)発行:経営品質会議
何を言っても大丈夫な場づくりを進め、関係の質の向上を図る。	心理的安全性についての学びを深める研修を実施し、日々の行動を変え、関係の質の向上を図る。	周知研修1回 各事業所取り組み実施 心理的安全性の7つの質問サーベイ実施
小さく始め、小さな成功体験を積み重ねる。	各事業所でのケース会議、法人全体での実践報告を行い、法人理念に基づく、支援事例の語り継ぎをする。	フォーラム時1回
	各自が個人目標の設定において、理念に基づいた取り組みを定め、実践する。	目標管理シート記載、考課
根拠に基づいた支援や経験を伝え合う習慣をつくる。	サポーターズカレッジを活用し、職員一人ひとりがスキルアップを図る。	個人研修計画立案・受講管理
	生成AIを新たなパートナーへ。生成AIの活用を進め、業務効率の向上と創発的な取り組みを増やす。	各事業所の会議や業務への活用件数3事例

### ●研修実施計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理的安全性研修				実施								
理念浸透研修	実施											
個別面談サーベイ		面談実施						自己申告サーベイ				
実践報告								実施				

## II-3. 令和8年度衛生委員会事業計画

### ●委員会目的

安全衛生推進者を配置し、労働災害ゼロを目標に予防と再発防止を中心に取り組みを行います。  
改正労働安全衛生法に基づくストレスチェックの実施を行います。  
年齢の高い職員が比較的多い事業所であり、職員の健康増進や生産性の向上等を目標に健康管理、メンタルヘルス対策を中心とした取り組みを行います。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ①労働環境、健康管理、メンタルヘルス対策を中心とした取り組みを行います。
- ②労働災害ゼロを目標に予防と再発防止に向けた取り組みを行います。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
ストレスチェック受診率 80%達成	健康管理は身体と心の共にあるため、メンタルヘルスケア(セルフケア)の一環としてストレスチェックの受診を進める	ストレスチェック受診率
健康促進・生活習慣 病予防	健康診断実施の際にB型肝炎検査を導入し、職業リスクから生まれる不安の軽減に繋げる。 健康促進・生活習慣病予防に取り組む	B型肝炎検査実施 健康促進イベント
労働環境・ヘルスケア 対策	労働相談日・衛生相談日を設け、健康経営に取り組む	相談件数
労働災害件数「0」 労災ヒヤリの集積	職場環境の確認・改善に努めヒヤリハットから労働災害を防止する	労働災害件数

### ●委員会主催研修

安全衛生教育【就業規則周知研修(6月・9月・12月)】

### ●会議開催計画

4月	健康促進企画・ほけん便り発刊(春号)	
5月	【会議開催なし】	衛生相談日
6月	就業規則研修・ストレスチェック実施	
7月	【会議開催なし】・ほけんだより発刊(夏号)	
8月	【会議開催なし】	労働相談日
9月	就業規則研修・ストレスチェックデータ収集	
10月	【会議開催なし】・ほけん便り発刊(秋号)	
11月	集団分析データからの改善対策	衛生相談日
12月	【会議開催なし】・就業規則研修	
1月	【会議開催なし】・ほけん便り発刊(冬号)	労働相談日
2月	今年度実施内容の確認及び次年度実施計画の検討	
3月	職場巡視改善確認	

## II-4. 令和8年度情報発信委員会事業計画

### ●委員会目的

- ・職員みんなで利用者さんの笑顔や千鳥福社会の良さを発信していく。
- ・情報発信技術の習得や時間的制約の課題を解決し、気軽に情報発信ができるようにしていく。
- ・風通しが良く、心理的安全性の高い、明るく、前向きで、協力的な職場風土の醸成に寄与していく。採用活動等、仲間を増やす活動をする。
- ・理念経営を下支えし、法人理念の浸透や組織文化の醸成と各自のwillを結びつけるインナーブランディングの活動をして行く。

### ●経営課題(重要成功要因)

理念経営×広報にシフトする。

- ①当法人が大切にしている理念、価値をストーリーで伝えていく。
- ②継続的な発信の仕組みづくりを強化する。
- ③現場職員が発信の主体者になる。(内部発信で試行→外部発信)

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
千鳥福社会の「今」を伝える。 【SNS】	マチコミTL、InstagramなどのSNSの活用により、気軽に、カジュアルに、タイムリーに千鳥福社会の「今」や利用者のみなさんの「日常」を発信していく。 法人職員の雰囲気発信に取り組み、ブランディングや採用活動等、仲間を増やす活動をする。	月3回程度の発信、投稿
千鳥福社会が「大切にしている」ことを伝える。理解を拡げる。 【機関紙】	まず開きたくなる、楽しく読める機関紙へリニューアルをする。「人×写真×ストーリー」の紙面構成で千鳥福社会が大切にしている利用者のみなさんのこと、職員のこと、法人の理念や考え、取り組みをストーリーとして伝えていく。	年3回発行
千鳥福社会とそこで働く私たちの「良さ」を伝え合い、関係性の質を高める。 【社内報】	社内報は風通しの良い感情の交流を進める場として活用し、関心を寄せ合い、職員通しのつながりを深めることができるようにしていく。 【年度取り組み】 ・法人と私たちの歴史、物語を発信、共有していく ・支援ストーリーや職員インタビュー等の内部発信(試行)→外部発信へ	年6回発行

### ●委員会主催研修・訓練計画

6月 発信力向上研修(目的設計、ストーリーの共有、表現力)

10月 コミュニケーション研修(関係性づくり、他者理解、ナラティブを語り合う)

### ●会議開催計画 (第2木曜日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
機関誌発行	①企画調整	校正発行		②企画調整		校正発行		③企画調整		校正発行		
社内報発行	①企画調整	校正発行	②企画調整	校正発行	③企画調整	校正発行	④企画調整	校正発行	⑤企画調整	校正発行	⑥企画調整	校正発行
委員研修			スキルアップ研修				スキルアップ研修					
その他	機関紙リニューアル業者打ち合わせ										振り返り計画立案	

## II-5. 令和8年度安全管理委員会事業計画

### ●委員会目的

利用者にサービスを提供する過程において、利用者の生命や身体の安全が守られると共に、人としての権利が大切にされ、より良いサービス提供をすることを目的とする。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ① 利用者の権利の尊重を第一義とする。
- ② 安心、安全なサービス提供を行うための仕組みを整える。
- ③ 学識経験者の助言を得、根拠に基づいた支援を行う。
- ④ 利用者、家族の声を聞き、利用者ニーズに合ったサービス提供を行う。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
利用者の意志と選好の尊重と安全配慮のバランスを考慮しつつ、ご本人が幸せを感じられる時の機会創出増の手立てを探求する。	意思決定支援の義務化に伴い、利用者の意志把握のための必要なプロセスが取れるようになる。 第三者委員(学識経験者)よりスーパーバイズを受け、ニーズベースの支援ができるようになる。	委員会議題検討2回

### ●会議開催計画

回	開催月	内容
第1回	6月	・各委員会今年度計画について ・定例報告
第2回	10月	・意思決定支援プロセス整備等の進行状況について (※サビ管、児発管、意思確認担当者参加) ・定例報告
第3回	2月	・事例報告学習会「意思決定支援について(コミュニケーション支援を中心に)」 (※サビ管、児発管、意思確認担当者参加) ・定例報告

### III-1. 令和8年度医務事業計画

#### 1. 本年度医務基本方針と実施内容

##### Ⅰ 健康管理と病気の予防対策

入所(持田寮)	通所(ういんぐ・センター・フレンド・グループホーム)
① 毎日の検温、降圧剤服薬の方等の血圧測定を行い異常の早期発見に繋げる。 ② 利用者高齢化に伴い生活習慣病に着目し、検診結果や毎月の体重・血圧測定から必要に応じて主治医、嘱託医と連携し疾病を未然に防ぐよう努める。 ③ 定期健診に追加した検便の必要性を広め採取数を増やし定着させる。 ④ 嚥下機能に応じた食事形態を栄養士と協働で調整し誤嚥予防と安全な経口摂取の維持を図る。 ⑤ 感染予防(消毒・換気)に常時努め、感染拡大にならないよう環境を整える。	① 事業所間でのより良い情報交換により異常の早期発見・適切な受診へ繋げる。 ② 定期健診や歯科健診・嘱託医往診により早期発見・治療に繋げる。 ③ 毎月の体重測定・血圧測定により身体の変調を把握する。 ④ 公社健診で精密検査の必要性のある方は再診の勧めや受診同行を実施し、予防・治療に介入対応する。 ⑤ 必要に応じて消化器系疾患(大腸がん検査)を勧め検査に介入する。

##### Ⅱ 健康維持・増進のための体力づくり

入所(持田寮)	通所(ういんぐ・センター・フレンド・グループホーム)
① 日中活動や運動、散歩やプール活動への参加を促し筋力低下の予防とADLの維持に努める。 ② 口腔衛生の維持、歯磨き支援の継続。 ③ 状況に応じた手指衛生、コンクールを使用した口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持と感染予防に努める。 ④ 毎朝のラジオ体操を実施 ⑤ 嚥下機能向上のためパタカラ体操の実施	① 日中活動の中で肥満防止や運動機能低下防止のための運動メニューの促進。 ② 手洗い・うがいの習慣化により感染症の予防に努める。 ③ 食後の歯磨き支援の再開(自立と介助支援)。 ④ 免疫力アップのために活動の中で(運動・リラックス・音楽鑑賞・パタカラ・笑いヨガ)メニューを取り入れる。

##### Ⅲ 危機管理と緊急時対策

入所(持田寮)	通所(ういんぐ・センター・フレンド・グループホーム)
① 感染症予防と発生時の対応強化(初動対応の徹底) ② 体調急変、緊急時(誤嚥や発作等)に対し応急処置など迅速な対応が出来る体制を整える。 ③ 服薬管理(確実な服薬と誤薬・落薬防止)の徹底。 ④ 個別緊急時対応シートの更新	① 服薬の管理を正確に行い、誤薬や未服用の防止に努める。(与薬は看護師、不在時管理者が指示する) ② 救急を要する急変(発作・意識障害)、事故(誤飲・転倒)時の早期対応が誰でもできるよう習得する。 ③ 高齢・重症化に伴う危険防止(転倒・誤嚥)のための環境整備と日常介助時の安全確保、見守り強化。 ④ 感染予防の為の定時検温チェック、状態の観察、換気、必要に応じての消毒清掃を行う。 ⑤ 肝炎(B型肝炎)の抗原抗体の定期的検査

#### 2. 重点実施項目

入所(持田寮)	通所(ういんぐ・センター・フレンド・グループホーム)
① 高齢化に伴い転倒リスクも増えるためADLの評価しそれに適した対応を統一する。 ② 新たな受診報告や健診結果について保護者様に迅速に対応する。 ③ 加齢による二次的疾患、生活習慣病予防の強化 ④ 感染症対策BCPの更新 ⑤ 高齢化や症状の悪化から安全を守る為の対策(環境整備等)の徹底と、定期的な評価を行う。	① 健康状態が気になる方、受診を勧めたい方の同行受診の充実。 ② 職員全体が利用者の現状疾患や状況を把握するための保健記録の発進。 ③ 認知症状予備軍対象者(高齢者、認知症状の疑われる方々)への認知度テストと早期対応。 ④ 衛生管理のできにくい方への働きかけと支援。 ⑤ 家庭との連携・関係性を深める取り組みの継続。 ⑥ 感染症発生時のBCPに元づいた研修・実践。

#### 3. 年間計画

6月	口腔衛生の強化	6月	食中毒予防
8月	歯科健診	8月	歯科健診
10～11月	インフルエンザ予防接種・定期健康診断(公社)	10～11月	インフルエンザ予防接種・定期健康診断(公社)
12月～2月	インフルエンザ・感染症対策	12月～2月	インフルエンザ・感染症対策

## III-2. 令和8年度栄養管理委員会事業計画

### ●委員会目的

給食の満足度を上げ、残食・廃棄等による食品ロスを低下させる。

イベントを提案・企画し取り入れることで日々の食事に楽しみを得る。

### ●経営課題(重要成功要因)

①給食の廃棄量を減らす。(特に昼食の残食数をひと月各事業所20食以内を目指す)

②健康維持のための適切な食生活と効率的な食事提供に努める。

③食事が楽しみになるよう興味・満足度を高める。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
①極力目標値に近づける。	<p>昼食に関しては行事等による食事提供の停止等の情報提供を各事業所に行ってもらい発注調整をかける。感染症・天候悪化等によるキャンセルは致し方無いが、毎週報告に上がる食数を確認し、日々変更等をこまめに行う。</p> <p>残食が多い日は各事業所にお知らせし、喫食者を募る。食材費高騰による給食費値上げが続いている為より一層調整が必要。</p>	月の残食数
②日々の利用者さんの体調等をこまめに把握し安全な食事提供を心掛ける。	<p>各事業所の職員から利用者さんの体調変化等情報を共有させていただき、個々の状態に合わせ形態変更を行う事で事故等の危険リスクを回避し安全な食事提供を行う。</p> <p>食事形態変更等の決定は職員・看護師と連携し、利用者本人の能力を極力低下させないように慎重に検討するよう努める。</p>	各事業所自治会参加報告書(給食関連のみ)
③残菜率月平均5%以下	<p>昼食の残食率が月平均5%を上回っている為、自治会等で利用者さんから意見を聞き、可能な範囲にはなるが、即時対応を目指し喫食率向上を目指す。また、栄養管理委員会や自治会等で給食に対して直接意見を言うてもらうことで食に対する興味・関心を持ってもらう。</p>	満足度調査結果 残菜調査結果

### ●設備等整備計画

エアコンクリーニング・厨房換気扇清掃・グリストラップ清掃

### ●研修企画

嘔吐物処理研修(日清主催):11月頃実施予定

### ●会議開催計画

月に一回栄養管理委員会実施

### III-3. 令和8年度リスクマネジメント委員会事業計画

#### ●委員会目的

利用者(児)の生命および身体の安全を確保し、事故やトラブルの未然防止を図るため、事故・アクシデントの分析および再発防止策を検討し、事業所のリスク管理体制を強化する事を目的とする。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ① 事故・インシデント・アクシデント報告体制の確立
- ② 事故原因分析と再発防止の実施
- ③ 施設内の安全管理体制の強化
- ④ 職員のリスク管理意識の向上
- ⑤ 迅速な事故対応体制の整備

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
事故・インシデント・アクシデント報告書の収集	○各事業所の報告書の定期的を委員会で確認 ○事故・アクシデント・インシデント発生時の報告ルールの周知	委員会で報告(毎月)
事故原因の分析	○発生原因分析 ○再発防止策の検討 ○各事業所支援会議等での情報共有	委員会での分析・検討 →事業所での共有(1回/月)
安全点検の実施	○事業所内の安全点検 ○危険個所の改善 ○設備の定期確認	各事業所(1回/年) 年間計画参照
職員研修の実施	○インシデント報告の重要性の説明 ○報告しやすい環境づくり(責任追及ではなく改善目的) ○事故事例の共有	委員会で検討し、支援会議での周知
マニュアルの更新	危機管理マニュアルの更新	年間計画参照

#### ●事業所点検

危険個所の修繕依頼

#### ●会議開催計画(毎月第3金曜日 9時30分から11時)

- インシデント・アクシデント・事故報告(各事業所)
- 事故原因の分析・課題の確認
- 再発防止対策の検討

#### ●年間計画

4月		5月	ばすてる事業所点検
6月	マニュアル更新	7月	フレンド事業所点検
8月		9月	持田寮事業所点検
10月	マニュアル更新	11月	グループホーム事業所点検
12月	ういんぐ事業所点検	1月	ばすてるびいす事業所点検
2月	マニュアル更新	3月	マニュアル更新

### Ⅲ-4. 令和8年度 虐待防止・身体拘束適正化委員会事業計画

#### ●委員会目的

障がい者基本法の基本理念に則り、利用者への権利侵害の早期発見と防止に努めるとともに、支援者側の虐待防止、身体拘束等の適正化等、必要な知識とルールの一統化と支援の専門性の向上を目指し、『虐待』という不安な思いやことばのない法人を創ります。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ①虐待防止年間計画を作り組織的に運営し、進捗管理
- ②虐待防止のチェックとモニタリング
- ③虐待(不適切な対応事例)発生後の検証と再発防止策の検討
- ④従業員の虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
・相談受付対応(苦情受付)のスタンダード化する。	・利用者の方の意思疎通手段の確保に努め、コミュニケーションの難しい人からの意見や要望の聴取に努める。 ・各事業所に合った意見箱の運用方法を検討。	●毎月
・事業所間で不適切な支援に関する認識が一致している状態を作る。	・虐待防止チェックリストの配布、集計。また重点的課題の取り組み状況の報告と検討、進捗を追う。 ・チェックリストの変更、進捗管理の徹底。	●4月・7月・10月・1月 (4か月に1回配布、集計)
・身体拘束ゼロにする。	・身体拘束等の適正化のための検討会実施。 ・3要件を満たし、かつ、確認等手続きが実施されているか、身体拘束をしなくてもよいか改めて検討をする。	●毎月 (拡大版6月・11月・3月)
・全職員が虐待防止に対する意識の向上と課題について、自律的に検討が出来るレベルの知識の習得する。	①法人内部研修の企画・実施。(意思決定支援) ②必須研修(虐待防止、身体拘束等)については、各事業所にて実施。 ③新規職員研修。(各管理者)	①全体研修年2回(独自研修・全体フォーラム) ②各事業所年2回 ③入職時
・委員としての役割を徹底する。	・虐待防止の基本理念を理解、職員に対して虐待に対する行動規範を周知徹底／指針とマニュアルの整備:虐待防止、 <b>意思決定支援</b> のための指針やマニュアルを整備／虐待を予防し、早期に発見できるような取り組み作り	●随時

#### ●委員会主催研修

- ・全体研修 : 『意思決定支援について』
- ・各事業所(年各1回) : 『虐待防止について』 / 『身体拘束について』
- ・各事業所(随時) : 『権利擁護について』 / 『新規職員研修』

#### ●会議開催計画

- ・毎月第3水曜日9:30～開催予定(祝日の場合は、第2水曜日に開催)

### III-5. 令和8年度防災委員会事業計画

#### ●委員会目的

・想定される災害への対策を検討し、研修、訓練等により対応行動が取れるようにし、利用者、職員の安全を守る。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ① 防災マニュアルやBCP(事業継続計画)の更新をし、災害への備え、発生時の対応行動を定める。
- ② **消防計画**や防災マニュアル、BCP(事業継続計画)の周知、防災訓練の実施により、職員が適切に判断でき、必要な対応行動を行う事ができるようにして行く。
- ③ 救急法の周知、講習を行い、対人サービスの場面にて遭遇する一次救命処置が行えるようにする。

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
BCP(事業継続計画)の更新を行い、より実際の災害時の運用に適應できるようにして行く。	① 各事業所のBCP(事業継続計画)を更新していく。 ② <b>法人内事業所のBCP(事業継続計画)の擦り合わせを行い連携、応援体制を構築する。</b>	災害発生時の居住支援事業所の応援体制の構築。
BCP(事業継続計画)の周知研修、訓練を行うい対応行動ができるようにする。	① 新規職員に研修実施。 ② 法人全体研修の実施。 ③ 外部BCP研修に参加。 ④ 事業所毎に訓練を実施する。	① 入職時 ② 7月、10月(フォーラム時) ③ 開催案内時 ④ 各事業所が定める。
災害発生時の対応行動を把握し、対応行動ができるようにする。	① 土砂災害、地震、火災想定訓練はより災害発生時に実際取るべき行動の予行練習として実施する。 ② <b>原子力災害想定避難訓練は持田寮単独訓練から法人全体訓練へ更新して実施する。</b>	土砂災害(BCP訓練)1回 地震(BCP訓練)1回 火災2回、 他事業所単独訓練 原子力災害2回
救急法講習を行い一時救命処置を誰もができるようにして行く。	① 未取得の委員の普及員資格講習の受講及び、有資格者の更新研修受講。 ② 法人内救急法講習を実施する。 ③ 各事業所救急法講習を実施する。	① 研修計画による受講 ② 2回/年 ③ 1回/年

#### ●委員会主催研修・訓練計画

6月	土砂災害想定訓練(BCP訓練)	11月	BCP研修(フォーラム時)
7月	BCP研修		原子力災害訓練:伝達訓練
9月	地震想定訓練(BCP訓練)	12月	原子力災害訓練:避難訓練
10月	火災想定訓練	3月	火災想定訓練
	救急法講習		救急法講習

#### ●会議開催計画

1回/月 ・第2水曜日

### III-6. 令和8年度 感染症対策委員会事業計画

#### ●委員会目的

コロナ、インフルエンザウイルスをはじめ、身近に発症する感染症について正しい知識を持ち、感染防止に関わる予防策や対応法の周知に努め、利用者(児)、職員の安全を守ることを目的とします。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ①BCP(事業継続計画)や感染症対策マニュアルの職員周知
- ②研修企画の実施並びに事業内訓練の提案
- ③予防対策、感染拡大防止対策に向けての職員の意識付け
- ④拡大委員会の実施
- ⑤医療機関からの感染対策実地指導企画実施(持田寮、グループホーム)
- ⑥事業所訪問研修企画(ケアセンター大空へ)
- ⑦BCPの更新(共通領域)

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
感染症の拡大防止	・感染症予防や感染拡大防止に向けての職員への注意喚起を行う	マチコミにて定期発信
研修・訓練の企画実施	○座学研修 ○実践・シュミレーション訓練	年間3回開催
拡大委員会の実施	各事業所代表者を集めた拡大委員会を定期的に実施 ・感染症対策に関する共有事項の確認 ・国、自治体から出る情報を発信し、共有する ・各事業所内における課題共有と対策検討	6月 9月 1月
感染防護具の適切管理	緊急時使用用検査キット等の発注、管理(コロナ・インフル兼用キット)	30個購入
感染症対策実地指導の開催	特定医療機関から専門員を派遣し、感染症対策の実地指導を受ける(持田寮、グループホーム) ※障害者支援施設等感染対策向上加算申請対象事項	6月
事業所訪問研修会	特定事業所にて訪問研修会を企画(年2回)	7月・2月
委員勉強会	感染症対策委員会内で勉強会を行い知識を深める	8月・12月
BCP更新	・行政の方針、法人・事業所の実態により定期的にBCPの見直しを行う	1月拡大委員会にて意見聴取 2・3月で修正

#### ●委員会主催研修

- 6月 BCP、感染症対策マニュアル研修、シュミレーション訓練(ガウンテクニック)
- 9月 BCP、感染症対策マニュアル研修(手洗いの仕方)、シュミレーション訓練(吐物処理研修)
- 1月 各事業所内シュミレーション訓練事例提案、BCP更新意見聴取

#### ●通常委員会開催計画

1回/月開催

### III-7. 令和8年度安全運転委員会事業計画

#### ●委員会目的

日常の車両運転において安全運転の意識を高め、事故や違反・外部からの苦情が無いよう職員への周知や働きかけを行う。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ①車両に関する事故を減らす。
- ②交通違反を無くす。
- ③運転マナーを常に意識する。

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
安全運転や運転ルール・マナーなど周知し、交通事故防止に繋げる。	委員会を開催し、状況報告及び事故報告の検証を行い、それを基に事故予防策を検討し周知する。行政の動向を情報共有し、法人内での取り組みを具体化する。	年6回
年間を通しての事故防止と、道路交通法改正の情報を周知。	危機管理マニュアルを軸とした、交通安全に関する内部研修の企画・実施と、法令改正情報の発信。	随時
季節ごとの環境変化に伴う注意点を意識して頂く。	季節ごとに重点実施項目について内部研修を実施。	年4回
運動期間の周知と、内容の周知を行い無事故無違反につなげる。	全国交通安全運動の推進。	年3回
法人全体に対する情報の共有。	マチコミを利用した安全運転及び、交通事故防止に関する情報を発信。又、苦情防止に繋がる発信も行う。	随時発信
外部研修の情報発信	安全運転に関する外部研修情報の発信。	随時発信

#### ●設備等整備計画

・敷地内安全走行啓発看板設置検討。

#### ●委員会主催研修・訓練計画

- ・危機管理マニュアルに沿った内部研修。(8月)
- ・季節ごとの重点実施項目に沿った内部研修。(5月、8月、11月、1月)

#### ●会議開催計画

・安全運転委員会 (5月、7月、9月、11月、1月、3月)

## IV-1. 令和8年度ひまわり事業計画

### ●実施事業と契約者数

特定相談支援事業180名、障害児相談支援事業50名、指定一般相談支援事業(地域定着1名)

### ●事業目的・方針

障がいのある方の今を受け入れ、自分で選択・決定ができるよう一人一人に向き合ったあなただけの生き方をサポートする

### ●事業所として目指したい姿

特定相談支援事業: 自己決定から自己実現へ繋がる事業を行う

障害児相談支援事業: 児童期から成人への成長とご本人の可能性を大切にする事業を行う

指定一般相談支援事業: 自分らしく暮らすことを支援し、エンバワメントと地域資源を重視した支援を行う

### ●経営課題(重要成功要因)

- ① 支援者同士の関わりの中でいいアイデアを生み出し、助け合うことで成功体験を重ねる。
- ② 知と経験の共有、伝承を行い、相談支援の資質向上と意思決定支援実現の礎とする。
- ③ 収支も踏まえた支援量のバランスが構築できるよう検討を重ねる。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
チームのメンバーを大切なパートナーとして、なんでも話し合える安心感を高める。	風通しを良くするために互いの近況を伝え合い、お互いのことを理解し合う。	支援会議時毎月
ニーズベースの支援を事業所内外で共有し、知と経験を活用する	ニーズベースの支援に基づく体験と気づきを伝え合う。 他法人情報やを支援関連情報を法人内に提供する。 法人全体で意思決定支援が為されるよう取り組む。	支援会議時毎月 法人内情報交換会年4回 サービス担当者会議
収支の改善を目指した支援調整を継続する	月次収支報告から収支の見直し、改善検討を行う 年間を通した収支と支援量の見通しを持ち、新規利用獲得について随時経営状況を鑑みて検討を行う	支援会議時毎月 新規要請時

### ●年間行事等計画

相談支援事業所連絡会参加 毎月

地域貢献活動 近隣清掃 年2回(5月、10月)

### ●設備整備・修繕計画

パソコン更新(1台)

### ●会議等開催計画

ひまわり支援会議 毎月11日頃

感染症対策…拡大委員会参加(7・9・11月)

### ●事業所内単独研修実施計画等

サポカレ活用勉強会(意思決定支援について) 年2回

アセスメント事例検討会参加(絆主催): 年4回 外部主催研修会への随時参加

事業所モニタリングを兼ねた他事業所行事参加のベンチマーキング研修、やすらぎ喫茶参加

感染症対策…BCP・感染症マニュアル研修、シュミレーション訓練(7・9・11月)事業所内訓練(12月)

自然災害対策…BCP研修(11月フォーラム時) シュミレーション訓練11月

### ●経営収支目標(数値)と具体的戦略

前年比500,000円の収入増(主任相談支援専門員加算、高次脳機能障害支援体制加算に基づく)

契約者数の維持を目標に、自然減していく為月1~2件の新規契約獲得を行っていく。

※前年度契約終了者16名。月2名程度と考えて新規獲得数の参考とする。

## IV-2. 令和8年度持田寮事業計画

### ●実施事業と定員等

・施設入所支援事業:定員30名 ・生活介護事業35名 ・短期入所事業:6名 ・日中一時支援事業10名

### ●事業目的・方針

あたりまえの暮らしの中に、その人らしい幸せを重ねる。

### ●事業所として目指したい姿

○一人ひとりの尊厳と選択が守られるあたりまえの暮らし場へ。

施設入所支援事業:その人らしく暮らし続けられる望みを、守ることも、つなぐこともできる場へ。

生活介護事業:理解されている安心の中、楽しい時間と「できた」を重ね、その人らしい暮らしの広がりを支える場へ。

短期入所事業:地域生活を続ける人とその家族の安心と可能性を見出すもう一つの暮らしの場へ。

日中一時支援事業:地域での暮らしを支える、身近な支援の場へ。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ①対話から始め、職員メンバーが人間関係の不安を感じない安全な場をつくる。(関係の質を高める)
- ②利用者さん達との対等な関係を築く。(安心してその人らしさを出せる関係、生活歴や障害特性の理解)
- ③ノーマライゼーションの理念に基づき、持田寮グランドデザインの実現を目指す。(幸せを感じることができるあたり前の暮らし)
- ④価値提供をし続けることができる事業運営体制へ更新し続ける。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
【共通】 心理的安全性の高い場をつくる。	自然体な自分に戻り、メンバーの理解を進め、本音で話せる間柄になる。職員の相互理解を促進する取り組みをする。	リスニングワーク:1回 OD風雑談会:1回/月 心理的安全性調査の実施:2回/年、評定目標3.8以上
【共通】 生成AIを新たなメンバーに迎え、知が循環するチームへ更新する。	生成AIの活用により業務の効率化と創発を進める。 生成AIの会議への参加(アイデア出し、議事録作成) 支援に関する知識・情報提供や相談相手として活用。	AI活用勉強会(支援会議時):1回 活用・定着状況アンケートの実施
【共通】 利用者のみなさんとの対等な関係を築く。	コンサルテーションを受けてオープンダイアログの学習を進め、一人ひとりを認め合う文化を育てる。	オープンダイアログ研修会:2回/年
【事業共通】 一人ひとりを大切な存在としての「あなた」に。	あたたかい人とのつながりを感じられる対話の機会を創出し、傾聴する。	対話の時間プログラム実施:1回/週
【施設入所】 その人らしい暮らしを守る。	介護基礎知識、技術の再学習をし、望ましい介助、支援をする。	内部研修:1回
	「家族のような大切な人」としての関わりをスタンダード化する。 ユマニチュードの学習と実践	内部研修:1回 伝達研修:1回 効果測定:2回
【施設入所】 その人らしく暮らし続けるために住まう場を探す、つなぐ。	意思決定支援 地域生活移行への意志形成支援と意思確認の取り組みを行う。	GH見学会 意思決定支援計画の全員作成
【生活介護】 その人らしく日々を過ごすために活動をする場を探す、広げる。	意思決定支援 施設外の日中活動系サービスの利用の意向について確認をし、希望に応じたサービス利用を検討する。 ※選ばれるサービスプログラムづくりは以下。	意思決定支援計画の全員作成

【生活介護】 今、可能な範囲での職住分離を再構築する。	暮らしの場と仕事、活動の場を分ける。構造化による見通しの良さや生活リズムのメリハリをつくる。	活動場所の移転整備と構造化
【生活介護】 楽しい時間と「できた」を重ねる。	調理やハウスキーピング等、できることを担って暮らす機会を増やす。	クッキング等企画開催 朝、昼食後の清掃
	基本プログラムにプラスして個別、少人数プログラムを設け、好きな活動で楽しめる活動を提供する。(ウォーキング、買い物デイ、スヌーズレン他)	個別、少人数プログラム新設5件
【生活介護】 その人らしい生活を町の中に広げる。	日常的に街に出るサポートをし、地域で暮らしている実感を得る。	やすらぎ喫茶1回/月 買い物デイ4G:1回/月 ウォーキング1回/週
【短期入所・日中一時】 地域生活を続ける安心と可能性を広げる。	在宅者の地域生活を下支えするためのレスパイト的利用と将来生活の意思形成も含めた体験的利用を促進する。	利用率45%以上
【地域交流】 持田寮の個性や良さ(施設機能や資源、人)を活かして、支え合うつながりをつくる。	持田地区やすらぎ喫茶 地域住民送迎の再開とぼかし販売を始め、より地域のみなさんとの交流を深める。	送迎再開と毎回実施 ぼかし販売の開始
	新たなつながりの創出のために地域交流イベントを開催する。 ・松江だんだんプロレスの誘致開催 ・対話イベントの開催に向け、小さな実験から始める。	各1回実施

### ●年間行事等計画

- ・花見(4/3, 6) ・ポーリング大会(6/2、4、9、11) ・ふれあいカフェ ・七夕(8/3)
- ・旅行(9/29.30、10/10、17) ・クリスマス会(12/25) ・新年会(1/5) ・節分(2/3) ・ひな祭り(3/25)

### ●設備整備・修繕計画

- ・南棟居室一部床フローリング化工事 ・各所建具改修 ・敷地内イメージハンブ舗装 ・防犯カメラ増設
- ・公用車更新(乗車定員8名→10名)

### ●会議等開催計画

- ・支援会議：第4火曜日 ・リーダー会議：第3火曜日 ・夜勤者会議 3回/年
- ・モニタリング検討会議 2回/月

### ●事業所内研修計画等

- サポカレ研修(毎月支援会議時) ・防災訓練(夜間想定避難訓練6月、11月・救急法9月)
- 感染症対策…BCP・感染症マニュアル研修、シュミレーション訓練(7・9・11月)事業所内訓練(12月)
- 自然災害対策…BCP研修(7月、10月フォーラム時) シュミレーション訓練(6月、9月)
- 介護基礎知識研修(5月) ユマニチュード勉強会(7月) オープンダイアログ研修(8月、2月)
- 他施設見学 松江学園(5月)、you愛(6月)

### ●経営収支目標(数値)と具体的戦略

- 生活介護事業：利用率目標：80% 持続可能な運営体制への更新(祝日営業の廃止、第4土曜日営業へ変更)、新規利用者目標3名、利用ニーズに応じた日中活動の場、プログラム更新
- 施設入所支援：利用率目標：97% 利用ニーズの把握とスムーズな受け入れへの他機関連携
- 短期入所事業：利用率目標：45% 利用ニーズに応じた受け入れ体制の整備、対応力アップ

### IV-3. 令和8年度つばきの里 事業計画

#### ●実施事業と定員等

共同生活援助事業(介護包括型) 7ホーム 定員44名

#### ●事業目的・方針

地域社会の一員として、自己決定に基づく主体的で自立した共同生活が送れるよう支援します。

#### ●事業所として目指したい姿

- ・**重度・高齢化**に向け、機能維持や体調管理体制を強化します。
- ・利用者それぞれの方の**自由と意思が尊重**され、心身共に安心して暮らせる事業所を目指します。
- ・**利用者自治会**の成長を見守り、活動企画や地域との交流が**主体的**に行われるような事業所を目指します。

#### ●経営課題(重要成功要因)

- ①安心ある生活環境を提供するため、日々の**機能維持や体調把握、受診対応**に力を入れます。
- ②利用者様それぞれの方の**自立への思いやご意見を尊重し、話し合いを大切**にする取り組みをします。
- ③**利用者自治会活動の活性化と地域との交流**が進むよう、力添えをします。
- ④利用者満足につながるよう、職員が働き甲斐の持てる職場環境を作ります。

#### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
<b>【健康管理の体制作り】</b> 体調把握、機能、心身の健康維持管理。	・重度・高齢の利用者様に対して毎日のバイタルチェック、食事提供状況、身体、認知機能について細かく観察し、記録する。 ・医療ケアや適切な食事提供において、専門知識に基づく支援を行う。	・毎日の支援日誌内に記録。 ・迅速な受診対応と適時食事提供の見直し。
<b>【意思決定支援力】</b> 自立目標や相談事等における対応力向上。	・相談受付対応、自立目標の設定及び評価において、丁寧な意思確認を行い、そのプロセスを記録に残す。(意思決定支援記録)	・毎月の支援会議で状況報告。
<b>【利用者自治会活動の活性化】</b> 地域とのつながりと、自治会活動の成長。	・自治会便りの発行 ・地域の通学路清掃、グリーン松江の継続参加 ・地域連携推進会議の開催。 ・利用者自治会を側面的にフォロー、活動のスムーズな進行をバックアップする。	・自治会便り～年3回以上。 ・随時、自治会活動の記録を作成。
<b>【相互の敬意と尊重】</b> リスペクトし合い職員間の連携を生む。	・「サンクスカード」「グッジョブカード」で職員同士がお互いに尊重し認め合うことで、さらなる能力発揮や働きやすい職場の環境作りにつなげる。	・毎月支援会議で公表

#### ●年間行事等計画

- ・**避難訓練・研修**～(6月)浸水害 (9月)地震想定 (10月)原子力災害想定 (10月)救急法  
(6・11月)感染症対応訓練 (11・3月)火災想定 (2月)防犯訓練
- ・**自治会企画**～(5・6月)日帰り遠足 (6・11月)通学路清掃 (8月)利用者自治会お楽しみ会
- ・**環境衛生**～(7・12月)環境・掃除点検
- ・**地域とのつながり**～(6・10月)地域清掃(グリーン松江) (11月)地域連携推進会議

#### ●設備整備・修繕計画

- ・PC購入、アルト冬用タイヤ購入、事務所網戸設置、車いす購入

●会議等開催計画

・リーダー会議・・・毎月第3木曜日      ・支援会議・・・毎月第4木曜日

●事業所内単独研修実施計画等(時期・内容も具体的に表記)

・専門性向上と支援の質の均一化を図る。(年3回 当番制)

①5月・・・食事提供について ②9月・・・支援記録の書き方 ③11月・・・意思決定支援を学ぶ

・他法人グループホーム見学

●経営収支目標(数値)と具体的戦略

年間収入 6,500万円(積算100%)前年度比2%減 空き室 5部屋在り解消を目指す。

・定員44名スタート⇒40名とし、人員不足による支援の質の低下を阻止する。

・限られた職員体制でも安定した支援体制を維持するため、業務整理やホーム間連携を進め持続可能な運営体制の確立を図る。

・法人内との連携による利用率の維持、健康管理や通院支援の強化、事故防止などに取り組み、利用者が安心して地域生活を継続できる環境づくりと維持を図る。

IV-4. 令和8年度 L.C.C.ういんぐ事業計画

●実施事業と定員等

・生活介護事業:定員30名(契約者数32名 / 内:共生型地域密着型通所介護契約者3名)

・就労継続B型支援事業:定員22名(契約者数20名) / 地域活動支援センターII型:定員30名

●事業目的・方針

・それぞれがお互いを認め合い、自分らしく羽ばたける未来に繋げていきます。

●事業所として目指したい姿

・生活介護事業/就労継続B型支援事業 : 安心できて、挑戦できる場所を目指します。

・地域活動支援センターII型 : 充実した生活が過ごせるような場所を目指します。

・共生型地域密着型通所介護事業 : 作業、活動を通して生きがいや遣り甲斐を感じられる場所を目指します。

●経営課題(重要成功要因)

①利用率アップ/新規利用者の確保【共通】

②チームカアップ:『出来ない』ではなく、『どうやったら出来るか』で考えられる(報連相の強化⇒『共』に、『チーム』で考える、実践する、振り返る)【共通】

③地域と共に、共生社会実現【共通】

●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
①利用率アップ/サービスの質の向上 【共通】 ●利用率 生活介護85%以上、就労継続90%以上	1.祝日営業日の事業毎に個別化を行い、出席率、収入アップを目指す。 2.相談日、自治会を通して利用される方の期待、満足感を引き出す(聞き取る)力を養い、丁寧な関わり方を再構築する。 3.個別課題、新しい作業等チャレンジ出来る機会を創る。 4.家族、関係者への参観日企画。	1.祝日営業日(介護:行事、レクメニュー/就労:仕事中心) 2.意思決定支援についての内部研修(2回/年) 3.随時(作業活動発表企画含) 4.随時

②職員力・チームカアップ(共有、共感、チームを意識) 【共通】	1.ベア業務遂行による職員力の向上(自治会・環境整備・昼食管理・商品購入等) 2.職員の日々の業務内容と質の確認+Goodjob 3.研修報告会(外部研修+独自研修) 4.ういんぐ内作業・活動発表 5.サポートブック再更新	1.随時 2.ミーティング時(毎日) 3.支援会議時(月1回) 4.年2回(ういんぐ利用者・職員向け) 5.各事業別会議(月1回)
③地域の方と一緒に出来る企画を実施 【共通】	1.地域に発信する独自イベント実施する。(活動、イベント等) 2.地域イベントの参加、地域サークル見学、ういんぐ設備の積極的貸し出しを行う。 3.地域と共にを実現する為、ういんぐを知ってもらう、理解してもらう為の提案を行い、つながりを広げる。	1.独自イベント(2回/年) 2.地域イベント(ふれあい祭り/ヒルクライム/北山駅伝等) 3.運営推進会議(9月/2月)【通所介護】
④作業収入のUP 【共通】 就B:平均工賃12,000円以上 介護:支給金分の確保	1.自主製品『着火剤』新規販路確保、販路拡大に向けた取り組みを行う。 2.利用者の方の出来る活動、仕事へ作業工程の見直し、細分化する。 3.農作業強化。地域の仕事、行事に積極的に参加する。	【就労B型】 作業収入 月35万円以上/月 【生活介護】 作業収入2万円以上/月
⑤新規利用者・職員確保	1.事業所説明会、見学の実施する。 2.実習、介護等体験受け入れる。 3.新規利用希望者の要望を優先し、随時送迎体制やルートを変更する。	1.説明会・見学(8月～9月) 2.3.随時

### ●年間行事等計画

【全事業】遠足(5月)/旅行(10月～11月)/忘年会(12月)/新年会(1月)

ういんぐ地域交流イベント(7月他)

【事業別】七夕会(8月)/節分会(2月)/参観日(月1回)

### ●設備整備・修繕計画

・農作業用トラック購入

### ●会議等開催計画

・支援会議(毎月1回)/全体支援会議(全職員対象3月・9月)/各事業調整会議(毎月1回)

・通所介護事業運営推進委員会(9月/2月)

### ●事業所内単独研修実施計画等

・避難訓練/防犯訓練/救急法/感染症対策研修・訓練/職員研修企画(各会議時)

### ●経営収支目標(数値)と具体的戦略

・生活介護 … 利用率(85%):前年度比8%up、年160万up

・就労継続B型 … 利用率(90%):前年度比3%up、年95万up

・共生型通所介護 … 平均利用者数2人 介護保険事業収入200万円/年額

## IV-5. 令和8年度ワークセンターフレンド事業計画

### ●実施事業と定員等

・就労継続支援B型事業 ・定員20名

### ●事業目的・方針

・クリーニング、清掃作業等の仕事を通して就労支援を行い、より高い工賃を支給出来るよう目指します。

### ●事業所として目指したい姿

職員と利用者様の双方に信頼関係があり、共に同じ目標に向かって協力しながら、安心して毎日通いたいと思える事業所

### ●経営課題(重要成功要因)

- ① 作業収入を増やし工賃向上に繋げる。
- ② 支援費収入を増やす。
- ③ 経費節減。

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
協力し合える職場づくり	・利用者と職員が目標に向かってお互いに協力し合う。 ・職員同士の協力と助け合いを深めていく。 ・心理的安全をいつも感じられる事業所となる。	支援会議にて検証
フレンドへ通いたいと思える魅力の強化。	行事の取り入れや内容に工夫し、リフレッシュと社会体験の充実を図る。仕事以外にも楽しみを取り入れた上で、工賃も増やせるよう努め、フレンドに通って頂ける魅力を強化する。	満足度調査
工賃向上の実現	・効率の悪い作業は整理縮小し、効率の良い作業に力を注ぐ。 ・灯油など経費削減は継続して取り組む。	クリーニング 売上4600万円を目標 平均工賃 平均29000円を目標
作業量の確保	安定した仕事量を確保できる様常に取引先と良好な関係を保ち、作業量の確保に繋げる。	作業売上実績
働きやすさの実現	配達工程や洗濯など業務のまとめ、効率化を図り、利用者様・職員の負担を軽減する。	支援会議にて検証
地域貢献	地域清掃による地域貢献活動の実施。	年2回以上
職員のレベルアップ	重点的な取り組みに沿った内部研修を行う。	年4回以上
外部にフレンドを知って頂く	フレンドの活動や情報をマチコミ及びインターネットで発信し、社会の承認やフレンド利用に繋げる。	年6回以上
節約の意識を持つ	定期的なエアコン清掃の実施・紙や消耗品の節約。	エアコン年6回
常に感染症予防の意識を持つ	検温・換気・マスク着用など感染症対策を引き続き継続する。	毎日

### ●年間行事等計画

花見遠足(4月～5月)、日帰り旅行(10月～11月)、クリスマス会(12月)、新年会(1月)、節分会(2月)、ひな祭り(3月)、一泊旅行(3月)

### ●設備整備・修繕計画

コンプレッサー・結束機更新検討、工場業務用エアコン整備準備、公用車の更新準備

### ●会議等開催計画

支援会議(毎月1回) リーダー会議(毎月1回)

### ●事業所内単独研修実施計画等

内部研修:感染症(6月・9月・1月) 虐待防止(7月・2月) 安全運転(8月) 土砂災害(6月) 救急法(1月)

訓練 :単独避難訓練(9月・2月) 防犯訓練(2月)

### ●経営収支目標(数値)と具体的戦略

・令和8年度支援費収入目標 4150万円

○平均工賃アップによる高ランクの報酬単価を実現 ○見学者及び実習希望を積極的に受け入れ、利用者確保

・令和8年度クリーニング収入目標 4600万円

○取引先との関係を良好に保ち、作業量を確保

## IV-6. 令和8年度ぱすてる・ぱすてるびいす事業計画

### ●実施事業と定員等

放課後等デイサービス (ば)定員10名 契約者数14名 (び)定員10名 契約者数15名

### ●事業目的・方針

- ・子どもと家族の"今日の幸せ"と"これからのLIFE"を、関わるみんなで支え合いながら育む。
- ・子どもの挑戦や、自分らしさを応援できる居場所として、未来へ踏み出す力を共に育てる。

### ●事業所として目指したい姿

- ・子どもと家族を中心に、学校や関係者が協力し支え合う「円」の支援体制を築きます。
- ・日々の変化や気づきを共有し、職員同士が学び合う、チーム支援を大切にします。
- ・地域との交流や関係づくりを通して、子どもが社会とつながる機会を広げます。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ①収支差額の改善      ②施設の構造化の問題      ③職員の資質、現場判断力の向上  
 ④情報共有とチームワークの向上      ⑤属人化、「他人任せ」になりがちな風土の改善

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
自己選択を基盤とした支援プロセスを導入	活動参加や余暇選択において児童自身の選択を重視する。	自己選択に基づく活動実施記録数
子ども一人ひとりの特性・背景・強みをチームで共有し、「その子らしい支援」を実践できる状態をつくる	サポートブックの定期確認	支援計画検討会議における確認(年1回以上)
	個別のスケジュールを作り、見通しを持って過ごせるようにする	タイムスケジュール作成率100% ※ 試行した上で要 不要の判断をする事も含む
	計画検討会議で「ストレンクス共有」を必須項目化	会議実施率:月1回以上
	視覚化・構造化にあわせて、活動全体を再整理し、集団活動と個別活動の役割を明確化する(びいす)	・集団活動の実施:週3回以上 ・個別活動の実施:週2回
	活動立案会議にて、5領域に基づいた「ねらい」を明確化し、共通の認識をもって支援に入る	会議実施率:月1回以上 ※(5領域を意識して)活動立案→共有→振り返りで再確認 のサイクル
支援が「経験頼み」ではなく、共通言語をもった実践になる	困り感ケースの事例検討	・月1回以上(権利擁護会議にて) ・困り行動の減少事例の蓄積数
	「なぜこの支援か」を記録に残す ※ 会議での検討を経て決まった場合は議事録を、現場で判断し行った支援については支援記録を確実に残す。	支援変更の根拠記載率:70%以上
	ミーティングの開始時間を変更し、情報の周知連絡体制を見直す	隔週でミーティング時にアンケート実施
	思春期の方の支援、発達障害の方の支援についてSVを導入する	第三者委員によるSVの計画と実施
「誰かに依存しない支援体制」をつくる	支援の成功例や、ヒヤリハット共有の文化作り(LINEWORKS活用)	・常勤職員会議:月1回 ・インシデント共有件数(月1人1件以上)

「誰かに依存しない支援体制」をつくる	グッジョブ・サンクスの視覚化(LINEWORKS活用)	共有件数(月5件以上)
	マニュアル、ガイドライン等の研修(年間計画)	・業務マニュアルの整備数 ・研修の実施率
	「全員協力」による体制づくり(行事に焦点を絞る)	年間行事計画の遂行(100%) ※事前会議→進捗報告→協力の呼びかけ→実施と振り返りの1サイクル
「地域に開かれた居場所」になる	地域イベント参加	イベント参加件数
	保護者・関係機関との情報共有強化	関係機関連携件数
	地域交流企画(年1回以上)	・ハロウィン交流会(往訪) ・ぱすてる・びいす夏祭り(来訪) ※朝酌児童クラブの来訪が難しい場合は、ういんぐのイベントに参加
持続可能な運営体制を構築する	ペーパーレス推進	・勤務予定表と利用希望表(控)の削減 ・ペーパータオルの使用量削減(職員) ・更なる推進のために検討を行う(奇数月支援会議)
	利用率の安定化 ※利用率=実利用人数÷定員×100	・利用率80%以上 ・空き曜日を埋める新規利用の獲得
	欠席率の把握と対策 ※欠席率=(予約数-実利用数)÷予約数×100	欠席率の改善

### ●年間行事等計画

☆ぱすてる・びいす夏祭り(7/23) ☆ハロウィン交流会(10/17) ☆クリスマス会(12/25) ☆親子行事(6/6)  
☆第三者委員による保護者・職員向け研修会(9月)

### ●設備整備・修繕計画

【びいす】送迎車両購入(日本財団車両助成金申請予定。決定後ステップワゴンを廃車予定)  
支援室LED電灯1基、発達支援室にパーテーション導入

### ●会議等開催計画

☆支援会議…毎月第4木曜日 ☆権利擁護会議…毎月第2週 ☆リスク会議…奇数月第3週  
☆支援計画検討会議…毎月第1週 ☆活動案立案会議…毎月第3週 ☆茶話会…半期に1回  
☆リーダー会議…毎月第2週 ☆常勤職員会議…毎月第3週

### ●事業所内単独研修実施計画等

☆他事業所見学(ビビ)(4~5月) ☆発達障がい基礎研修(ウイッシュ)5月下旬頃  
☆マニュアル勉強会(年間計画で示す) ☆ガイドライン勉強会(年間計画で示す) ☆外部研修報告会

### ●経営収支目標(数値)と具体的戦略

(びいす)新規職員を獲得し、児童指導員等加配加算の高単位取得を目指す。

(ぱすてる・びいす)家庭や関係事業所と緊密に連携して加算の取得を増やす。

(ぱすてる・びいす)空き枠を埋める新規利用者の獲得と、欠席率の抑制に努める。

※前年平均延利用者数…ぱ:188人/月 び:205人/月 ※今年度目標数…ぱ:200人/月 び:211人/月

※サービス費収入予測…ぱ:2,179千円/月(前年比126%) び:2,108千円/月(前年比100%)

## IV-7. 令和8年度千鳥福祉会 ケアセンター大空事業計画

### ●実施事業と定員等

・訪問介護事業、居宅介護事業、行動・同行援護事業、移動支援事業 契約数 合計100名

### ●事業目的・方針

「豊かな社会づくりに貢献する(利用者・職員・家族が幸せに暮らせる事業所にする)」

### ●事業所として目指したい姿

関わるみんなが互いをケアし、支え合うことで、誰もが自分らしく生きられる社会を目指す

#### ・居宅介護事業:

行政や他の事業所、地域の多様なネットワークと連携し、包括的な利用者支援を行うことで大空のケアマネジメント力を高めることを目指します

#### ・訪問介護事業:

職員の能力向上と働きやすい環境が整うことで、利用者への丁寧な対応が可能になり、顧客満足度の向上に繋がります

#### ・行動・同行援護事業:

安全に社会参加し、地域生活を維持できるように支援することを目標とする。これにより、その方が持つ能力を最大限に引き出し、より豊かな生活を送れるようサポートします。

#### ・移動支援事業:

単に物理的な移動の手助けだけでなく、外出することで社会への参加を促し、生活の質を高めます。これにより、社会的な孤立を防ぎ、自立した生活や経済的な自立を支援します。

### ●経営課題(重要成功要因)

- ①関係者会議に参加利用者様の意思決定を把握し、相談員からの計画に基づいた個別支援計画作成し満足度を深める
- ②事業所内研修会を毎月行い支援に活かす
- ③ICTを活用しリアルタイムな情報共有を図り、ヘルパー会議時に全職員で周知
- ④効率的なシフト調整

### ●重点実施計画

達成目標	具体的行動計画	指標
満足度を深める	①関係者会議に参加し利用者の意思決定を理解する ②相談員からの利用計画に基づいた個別支援計画を作成する ③利用者の状況変化に応じて支援のあり方をチームで検証し関係機関に発信する	①開催された時参加 ②誕生日や支援内容が変更あった時 ③状況変化の際
事業所内部研修	①年間研修計画に沿って実施(大空支援会議時) ②担当者が研修内容を精査し資料準備等を行う ③研修を受けて気付きをチームで確認し、支援に取り入れる	①毎月第4週火曜日 ②前年度より研修内容を深める ③気付きを利用者支援に取り入れる
ICTを活かした情報共有	①利用者チームのライン等で支援変更等リアルタイムに発信し支援統一を図る ②各グループホームの世話人との情報共有をR7年度途中より始めた。成果も見えているので今年度も引き続き行い情報共有を図る ③ヘルパー会議時に情報共有の内容を精査し深めていく	①随時行う ②随時行う、他の職員にも発信する場合ヘルパー発信にて周知する ③発信した内容について経過など説明を行い理解していただく

<p>効率的なシフト</p>	<p>① 効率的に訪問出来るスケジュール調整を行う          ② 土日のご利用者にはイベント情報を発信し一極集中を避ける          ③ 利用者に今後の希望等を支援時に伺い満足度を深める          ④ 職員の指定休日を週1回設ける</p>	<p>① 週1回シフト調整時          ② 毎週発信          ③ 支援時毎回伺い、記録の申し送りに記載する          ④ 令和7年度末より実施引き続き行う</p>
----------------	--	--

●年間行事等計画

・持田公民館ふるさと祭り手伝い(10月)

●設備整備・修繕計画

・ノートパソコン1台購入

●会議等開催計画

・サビ提会議(毎月第2火曜日) ・大空支援会議(毎月第4火曜日) ・ヘルパー会議(年4回)

●事業所内単独研修実施計画等

4月:理念研修 5月:熱中症 6月:防災(避難所体験/外部研修日本赤十字社島根県支部)

7月:感染症(食中毒・コロナ/感染症委員会講師) 8月:認知症(外部研修/市社協)

9月:権利擁護(外部研修/市社協) 10月:クッキング(介護食/ホーム内部講師)

11月:リスク・ハラスメント 12月BCP(大雪) 1月:ICT(内部講師)

2月:感染症(インフルエンザ・ノロウイルス/感染症委員会講師) 3月:理念振り返り

●経営収支目標(数値)と具体的戦略

契約者数 100名程度 職員 常勤4名/パート 6名 登録ヘルパー 18名(他事業職員含み)

収入 介護 3,000千円/年間(昨年50%増) 居宅 42,000千円以上/年間(昨年比10%減)

移動 15,000千円以上/年間(昨年比10%減)

\* 上記の収入額を最低ラインとし「以上」を目指す。シフトの見直しを図り、支援と事務の分業化とICTの活用を行い業務効率を行い、支援時間を増を図る。